



デジタルサイネージによる情報 拡散と観光による交流人口増加

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科/社会情報学、ジェンダー、都市経済学

亀井 あかね KAMEI Akane

講師、修士（情報科学）



1. 研究内容

巨理町のニーズである「復興と観光－交流人口の増加を目指して－」に対して、以下2つの研究成果を基に「地域情報発信」及び「観光客誘致（着地型観光ツアーの商品化・販売）戦略」を実施することにより、地域産業振興を図ることを目的としている。

- ①デジタルサイネージによる情報拡散効果に関する実験（コンテンツ制作・設置）・調査研究
- ②地域調査研究（巨理町の地域産業・観光資源に関するデータベース構築）

本研究は「大学生によるまちづくり計画」プロジェクトとして、学びの実践による「働くこと」の動機付けの場としても機能し社会化促進の効果も期待される。

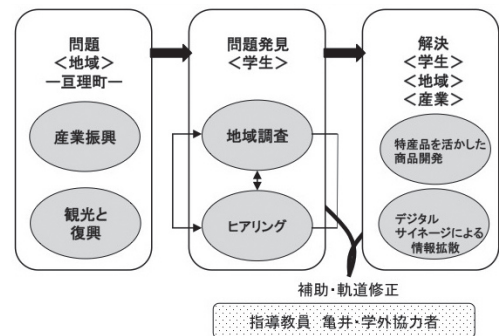


図1：連携イメージ
プロジェクトの流れ

2. 地域・産学連携の可能性

※本シーズの事業例

事業①デジタルサイネージ（東京都・八王子）による販路拡大イベント運営（平成27年10－11月、平成28年度継続）／テイルサイド社

事業②大学生による地域特産品を利用したレシピ開発、商品化・販売（8月－平成28年度継続）／NPO法人日本労働者協同組合連合会（ワーカーズコープ）巨理事務所

事業③地域産業・観光資源データベースを活用した着地型観光ツアー商品化・販売（平成28年度）／NPO法人日本労働者協同組合連合会（ワーカーズコープ）巨理事務所、協同総合研究所、NPO法人銀座ミツバチプロジェクト

事業④デジタルサイネージ（東京都・銀座）による地域物産・観光情報発信イベント運営（平成28年10月）／事業③に同じ

同様に他の地域においても、連携事業が可能である。



図2：大学生によるまちづくり計画
平成27年12月22日発表



図3：デジタルサイネージ
平成27年度制作



震災復興、社会情報、デジタルサイネージ、着地型観光、地域産業振興